

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム ぐりーんはうす

ユニット名 ひかり(1階)

自己評価実施年月日 平成 20 年 2 月 12 日

記録者氏名 上谷由未子

記録年月日 平成 20 年 2 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔の絶えない生活を目指します。」 「その人らしさを大切にします。」 「生きがいのある生活を支援します。」を基本理念とし、その実現にむけて取り組んでいる。	○	地域密着サービスの役割を再確認すると共に、地域との関わりを重視し住み慣れた地域で安心した生活を継続して送れる様な理念を取り入れて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会の度に必ず理念を共有し確認し合い、日々のケアの中で意識して取り組むことのできるよう心がけている。また、職員採用研修時には、必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。	○	理念を掘り下げて具体化し職員全体で話し合う機会を多く持ち、実践が理念に基づいたものになるように日常的に取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月のふれあい号の発行や家族会またはイベント交流などを通して家族や地域の方々にホームの取り組み内容を伝えるようにしている。	○	理念を家族や地域の人々にわかりやすく伝え理解してもらえるよういろいろな工夫（地域向け発行紙の発行など）をし、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員同行で毎日のように散歩に出かけ近隣の人たちとあいさつをかわしたり話をしたりしている。	○	近隣の人たちとは顔なじみになっている。今後は近隣の人たちが、気軽に立ち寄ったり遊びにきてくださるように関係を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流ふれあいコーナーを地域の方々に開放しいきいき百歳体操やかみかみ百歳体操の開催や図書館に行くなど地域の人たちと交流している。	○	地域活動への参加や地域の方々との関わりを積極的に持つことができるように取り組むたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	認知症についての勉強会の開催や看護学生の受け 入れを平成20年度より始める予定である。又認 知症サポーター研修を受講しオレンジリングの普 及に努めている。	○	地域の方々に認知症を正しく理解してもらえるよ うな取組を充実させていくとともに地域住民を対 象に介護予防教室の開催など実践して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果で出た課題について、改善計画シートを 立て、点検しサービス提供の質確保、向上向け て取り組んでいる。	○	職員全員で評価の意義や理解に努め外部評価の結 果で出た課題は全員で改善に向けて具体案の検討 を行い実践につなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	評価の結果は運営推進会議で説明報告し、運営委 員の方々から質問や意見、要望を受けサービスの 向上に生かしている。	○	運営委員の方々から多くの率直な意見を聞くこと ができ改善に向けた具体的な取り組みにつなげたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	事例検討会などに参加し行政の職員と情報交換を 行っている。	○	市町村関係者に当事業所を研修場所などに活用し てもらい、職員や利用者、地域の方々との交流を 図れるような取組みをしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護制度に関する研修に参加しており、 職員に対して施設内研修を実施し理解を深め 周知に努めている。必要がある方に対しては、入 所時に説明を行っているが現在は必要とされてい る方はいない。	○	対応が必要と思われる場合には適切な支援が受け られるように関係機関への紹介をするなどの橋渡 し役となる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待防止講演会に参加し、施設内研修を行い高齢 者虐待法に関する理解を周知している。又、「虐 待防止委員会」を設置している。	○	職員は虐待を正しく理解し入居者の権利が守られ るよう日々取り組んでいるが「虐待防止委員会」 を設置しより一層の虐待防止に取り組んで行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し重度化や看取りについての対応医療連携体制加算についてなど詳しく説明している。入居者の状態変化により、契約解除に至る場合は本人家族を交えて対応方針を相談している。	○	事業所としての対応可能な範囲の理解をいただくことと入居者ご家族の不安、疑問には十分にお伺いできるように時間をとって対応して行く。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに「気付き」ノートを設置し日々の介護において入居者の言った言葉、意見や発語困難な方は表情などをノートに書きプランに反映している。運営推進会議にも入居者に参加していただき意見を聞く機会を設けている。	○	利用者の言葉やその態度からその思いを察し一部の職員にとどまることなく申し送りカンファレンスを開きケアに反映し利用者本位の運営に取り組みたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便り「ふれあい」を発行し個別欄に担当スタッフより近況情報をお伝えしている。金銭管理は、毎月家族訪問時に出納帳を確認していただきサイン、印を頂いている。	○	ご家族の安心確保、事業所との信頼関係の維持のためにも丁寧な報告をこれからも行って行く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け意見を伺える機会を作っている。日頃も「意見を出していただける」雰囲気作りをし意見をお伺いしたときは、前向きに受け止めて改善に取り組んでいる。契約時運営推進会議、市相談窓口の連絡先をお伝えしている。	○	事業所の職員一同がご家族のご意見に耳を傾け「何でも云ってもらえる」雰囲気作りを行い意見を反映していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会において事業所としての報告のみでなく各職員からの意見提案を聞いている。連絡ノートを設置し意見を記入しミーティングを行い対処している。	○	不満や苦情は出しづらいことが多いができる限り、「言いやすい」雰囲気作りと、把握に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時には十分な対応ができるよう入居者の状態に合わせた職員を確保している。入浴は本人の希望に合わせて入浴して頂いている。	○	入居者の変動に常に柔軟な対応を行えるように状態の把握に努め管理者、職員、家族の連携を取って行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設内の異動によるダメージを最小限に防ぐため日頃から、施設内の入居者（利用者）にはなじみの関係作りを行っている。新職員に対しては研修期間をできるだけ多く設け入居者、家族には紹介を行う事としている。	○	日頃からどこの施設の利用者でも受け入れケアを行い馴染みの関係づくりに努めたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を設置し年間研修計画を立て取り組んでいる。各自に応じた職員研修を受け職員会にて報告を行う。共に学ぶ体制となっている。	○	受けた研修をどう利用者に反映、生かしていくかが課題である。職員のレベルアップを計っていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属しており、会に参加することにより、職員の研修を行っている。市主催による「事例検討会」に参加し同業者間の情報交換を行っている。	○	グループホーム連絡会や事例検討会に出席する事により他の事業所の意見や経験を事業所のケアに活かして行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者 主任は日ごろから職員から話しやすい雰囲気作りを心掛けている。勤務時間中に気分転換が図れる個別の休憩室を確保している。	○	職員の親睦会をストレス解消の機会とするのではなく個々の対応策として施設内だけでなく他事業所の職員等との交流も今後取り入れて行きたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年一回の健康診断を実施している。運営者は頻繁に現場に来て利用者とともに過ごしたり声かけを行い職場の業務を把握している。資格修得に対しても協力支援を行っている。	○	職員が向上心を持って働けるようにさらに取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談では生活状況を把握し必ず本人に会って心身の状態、本人の思いを受け止め職員を受け入れて頂けるように取り組んでいる。	○ 本人が納得するまで、お話をお伺いし本人の思いをできる限り早く受け入れられる様取り組んでいく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族がいま何に困っているのか、不安に思っていることは何なのか等を十分に伺い事業所としてできることをお話する。	○ ご家族の立場に立って事前に十分な時間を設け求められていることは何なのかを把握することで納得安心して頂ける様にする。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い状況などを確認し改善に向け場合によっては地域包括支援センターや事業所のサービスにつなげる等の対応を行っている。	○ 相談を受けた時は相談事が早く安心できるように対応して行く。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらったり、本人に会いに自宅へ出向いたりしてなじみの関係を作っている。本人には入所の納得ができていないかの確認をしながら対応をしている。	○ 本人がホームや職員に徐々に馴染みながらの利用に移行できるように工夫したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、食器洗い、野菜作りなどを一緒に行い料理の味付けなどは教えていただいたりとともに過ごしている。	○ 四季折々の野菜を作り収穫の喜びを一緒に味わって行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者に起きた事柄などは、必要時には相談し話し合う事で関係を築いている。	○	今後も職員と家族が本人の生活を支援し支えていける為の協力関係をさらに深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの暮らしぶりは毎月お便りでお知らせし、来設時又は電話で日常生活の様子を報告している。	○	本人と家族とより一層良い関係作りが深まるよう行事等に家族の方に積極的に参加して頂き共に過ごす機会を増やして行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所近くまでドライブしたり訪ねてくださる方々と楽しく過ごせるような場所の提供や雰囲気作りを心がけている。	○	今までの人間関係ができるだけ断ち切れないように家族にも協力してもらいながら支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルはよく傾聴し職員がさりげなく間に入って解消し時には一緒に外出し気分を変えることで良い関係作りができるよう支援している。	○	より一層利用者同士が助け合い支えあって暮らしていくことの大切さを考え支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者や家族の方から時折連絡があったり入院されている方には様子を伺いに言っている。	○	サービスの利用が終了しても利用者や家族の方が気軽にホームに立ち寄る事が出来たり相談してもらえるようなホーム作りをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での本人の思い、希望は何なのか把握は困難であるが不確実な場合は本人の視点に立ってカンファレンスを行い家族に意見を伺っている。	○ 職員の思い込みの視点になりやすいが常に利用者本位の原点に戻り支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴バックグラウンドに関する情報の大切さを伝え聞き取りに協力していただいている。	○ プライバシーに配慮してこれまでの暮らしを把握することでケアに反映する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること出来ないことの把握。 出来る可能性、心身の状態の把握に努めるようにし「気づきノート」「日々の記録」申し送りを通して本人の現状を総合的に感じ取るようにしている。	○ 「気づきノート」「申し送り」「日々の記録」を職員に徹底周知し利用者を総合的に感じ取るようにレベルアップを図る。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る限り担当者会議に本人、家族、担当者、ケアマネ、が出席。出席できない家族は電話で意見を聞き、話し合い介護計画を作成している。	○ 利用者や家族との日ごろの関わりの中で思いや意見を汲み取り、介護計画に反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎に評価しているが、対応できない変化が生じた場合は直ちに本人家族、ケアマネ、必要な関係者が出席し話し合い現状に合った新たな計画を作成している。	○ これからも利用者の変化に応じて見直しが必要になった場合は速やかに関係者と相談し現状に即した介護計画の見直しを行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをノートに記入し情報を共有してケアや介護計画に取り入れる。	○	意見交換を出来る時間を確保して行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出困難な利用者に訪問診療の支援が受けられるように取り組んでいる。	○	事業所として、必要な支援について何ができるのか、考えながら取り組んで行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員に地域民生委員や、町内会長に参加して頂き南署による「交通安全教室」年2回の消防訓練、利用者と図書館へ本を借りに行くなどしている。	○	同施設内に「地域交流ふれあいコーナー」を設置しており地域の方々に地域資源の活用のお場となるよう働きかけて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じ、訪問理美容サービスを利用している。	○	居宅ケアマネジャーや他事業所等との情報交換しケアに反映して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき情報交換しながら協働している。	○	困難な事例があった場合は事業所内での抱え込みではなく包括支援センターと協働し本人本位の支援につなげて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>今後も利用者 家族の方の希望を大切にしかかりつけ医との関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援して行きたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も専門医と連携をとり認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援に努めて行きたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>日常の健康管理や医療機関との調整等今以上に充実したものにしていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>利用者が入院した時には頻回に医療機関関係者と情報交換を行い早期退院に向けて相談し合っている。継続して取組んで行きたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ホームとして出来ることを早い段階から本人、医師、家族と話し合いを持ちながら職員全員で方針を共有する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>24時間対応可能な看護師、職員、医師と連携をとり可能な限り対応できるように取り組みたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今迄の生活の継続性が損われない様に生活環境、支援の内容、生活暦等ご家族の承認の下可能な限りの提供をしている。	○	利用者の環境変化によるダメージが最小限になるように関係機関には出来る限りの情報提供を心がけたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフが一人ひとりの人格誇りを尊重、理解し、丁寧な言葉ではないが入居者の心に届く様な言葉がけをしプライバシーを守れるよう支援している。	○	プライバシーに配慮し誇りを傷つけないよう日々のかかわりの中で細心の注意を払いたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一緒に歌を唄たり、手を握る等スキンシップを大切にし、そばに寄り添い傾聴できるよう働きかけをしている。	○	意思表示が十分に出来ない場合でも表情や行動から勘案し利用者の希望や自己決定が出来るよう取組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時その時を大切にし、一人ひとりのペースで生活できるよう就寝、起床時間、食事、入浴時間等日々の暮らしの中で自由にして頂ける様にしている。	○	寄り添える時間を、多く持てる様にして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の洋服は声掛けし選んでいただいたり入居者さんの希望に応じ馴染みの美容院への送迎を行っている。	○	その人らしい身だしなみやお洒落はとても大切なことなので気遣っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	一人ひとりの好みや力を活かせるようにとともに食事を楽しめるように支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	本人の希望に添えるようまたは日常的に楽しめるように支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	一人ひとりの排泄のパターンを理解し気持ちよく排泄できるよう支援していきたい。排泄アセスメント、ケアチャートの導入を検討している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	あまり入浴を好まれない方もおられるが気分を変え温泉施設なども利用するなど工夫している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	一人ひとりの体調なども配慮しながら個々に合わせた安眠や休息の支援をしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	ひとりひとりに合った楽しみや役割をこれからも見い出していきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いはホームで管理しているが一名は自分で持っておられあと一名は常時金額を決め、見守り状態で自分で支払買い物されている。	○	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり、使えるように日常の暮らしの中で支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員とともに買い物に出かけられたり希望によりほかの利用者の方とドライブに行かれたり、天気の良い日は周辺の散歩に出かけられたりしている。	○	今後も一人ひとりの希望に応じて外出支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年季節毎にイチゴ狩り、みかん狩り、お花見、菊祭り、コスモス祭り、あじさい見学に外出支援している。本人の行きたい場所の希望が出た時は実現に向けて職員間で検討し支援している。	○	家族の方々への働きかけをし、一緒に出かけられる様な機会を作って行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方はいませんが、電話を希望される方にはいつでも利用できるよう支援している。	○	電話をかけたいという希望は多いが、今後は手紙(年賀状など)などでご家族や遠方の知人等とのやり取りができるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には笑顔であたたかくお迎えしている。ゆっくり過ごして頂ける様お茶などをお出ししている。日頃の生活の様子をお話させていただいている。	○	気軽に訪問できる雰囲気作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての話し合いを持ち職員が理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束のないケアの実現のため今後も身体拘束について正しい理解が深まる様努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、玄関、他利用施設への行き来を自由にし、他の利用者とのふれあいを大切にしている。	○	今後も鍵をかけないケアに取り組む職員全体がカギをかける事の弊害の理解を深めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアの様子が確認できる場所での記録や調理の場所からも見守ることができている。	○	フロア全体が見回せるオープンカウンター式スタッフルームにしており、プライバシーに配慮しながら安全確保に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミ、消毒剤、裁縫類は施錠し必要に応じて提供している。	○	注意の必要な物品については一人ひとりの状態に応じて細心の注意を払っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内研修を行い行方不明、防災マニュアルを作って職員全体が周知するようにしている。	○	リスク防止対策委員会を設置し事故防止に努めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	リスク防止対策委員会により看護師指導のもと訓練を行っている。	○	リスク防止対策委員会内で利用者の急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しており定期的に確認訓練している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員による年2回の防災訓練をしている。地域の避難場所を確認している。	○	事業所内に防火管理責任者を配置し災害対策に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故発生時、ただちに電話で家族に連絡し状況説明をし対応している。リスク対策委員会で検討し改善策を実行している。	○	一人ひとりの状態の変化に応じ生ずると思われるリスクについてはその度家族に説明し理解を求め対応策について話し合いをしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲がなくなったり、いつも元気がないなどの様子が見られれば、バイタルチェックなどを行い看護師に協力を求めている。異常があれば変化や状態を記録に残し情報を共有している。	○	一人ひとりの体調の変化や異常の発見時の対応マニュアルを作成し適切な対応が取れるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんそれぞれの薬の説明書をカードケースに入れて薬の目的や、副作用、用法を確認し正しく服用できるよう支援している。変化があれば家族、看護師、医師に連絡している。	○	服薬の管理指導は看護師が行っており、職員全体が、薬の目的や副作用、用法、用量について理解できるように取り組んでいる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜嫌いの方はみじん切りにしたり、すりこんだりして調理の工夫をしている。又水分補給には心がけ体操や散歩などで便秘予防に取り組んでいる。	○	無理のない範囲で運動を取り入れ習慣となる様支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一日3回の食後に含嗽や歯磨きの声かけや働きかけを行っている。必要に応じ歯科受診をご家族にお願いしている。	○	口腔内の清潔保持は健康面からみても大変大切である。協力歯科医院にも協力をお願いし指導助言を頂き口腔内の清潔保持に努めていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には気を付けてチェックシートを記入している。毎月体重測定を行いカロリーの取り過ぎや低カロリーにもならない様になっている。	○	看護師と栄養士に相談しながら、一人ひとりの栄養バランスや一日の適切な水分補給量が確保できるよう職員全員で支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し月に1回、会を開催し話し合っている。インフルエンザ予防接種の実施等、またウイルスに関する勉強会も行っている。感染症予防対策マニュアルを作成している。	○	感染症予防対策マニュアルの定期的な確認見直しを行い全職員が周知徹底し実行できていくよう今後も取組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	乾燥機での消毒、病院用ハイターなどによる衛生管理を行い生物には火を通し2日に一回の食材の購入を行っている。	○	衛生管理には十分に注意を払い新鮮で安全な食事を今後も提供していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ユニットの入口には手作りのトールペイントの表札をかけ、玄関周りには緑の草花を植えたりくつろげるよう、椅子やテーブルを置いている。	○	浸しやすく安心して出入りができるよう玄関周りの工夫を今後していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリーや雛人形 桜の木などを置き季節感を取り入れている。	○	これからも居心地よく過ごせる共用の空間づくりを工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビ、ソファ、テーブルを置き自由に過ごせるようにしている。	○	一人ひとりの居場所づくりの工夫をこれからもしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットやタンス仏壇の持参もあり、配置も家族の方と一緒にされ個性ある居室づくりをされている。	○	本人や家族と相談しながら馴染みの物や好みのものを活かせるように工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝にリビング前のドア、食堂のサッシを開け換気を行っている。掃除の時の換気やこまめに冷暖房の温度調整に心がけている。	○	こまめな換気を行い、温度調節を図ってきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	浴槽内に滑り止めを使用したり廊下、浴室、トイレには手すりを付けている。	○	一人ひとりの機能に合わせた工夫をこれからも行って行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室を忘れられ小さな混乱をされる方のために居室入口に造花をつけ目印にしている。利用者が自立して暮らせるようそっと見守りをしている。	○	混乱や失敗が生じた場合は本人にとって何が混乱の原因なのか職員間で情報を共有し、話し合いしながら解決できるよう支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームとは少し離れているが、散歩コースに畑があり皆で野菜を作っている。	○	外回りの空間を利用し、利用者が楽しめる工夫をこれからも考えて行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「笑顔の絶えない生活を目指します」「その人らしさを大切にします」「生きがいのある生活を支援します」を基本理念とし画一的なサービスの提供にならないよう、日々理念を念頭に入れ職員全員で取り組むように努めています。グループホームを含め併設する事業所等に看護師の配置をしており、日々の健康管理、急変時の対応が日中、夜間を通して速やかに対応出来る体制を整えている。又、事業所内において各委員会を設置しいろいろな面から適切なサービス提供が出来ると共に安全、安心した暮らしが出来る様取り組んでいます。そして、フロア会や全体会等ミーティングの機会を儲け情報の共有をし全職員がサービスの質の向上に向けて日々努力しております。

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム ぐりーんはうす

ユニット名 あおぞら(1階)

自己評価実施年月日 平成 20 年 2 月 12 日

記録者氏名 上谷由未子

記録年月日 平成 20 年 2 月 20 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔の絶えない生活を目指します。」 「その人らしさを大切にします。」 「生きがいのある生活を支援します。」を基本理念とし、その実現にむけて取り組んでいる。	○	地域密着サービスの役割を再確認すると共に、地域との関わりを重視し住み慣れた地域で安心した生活を継続して送れる様な理念を取り入れて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会の度に必ず理念を共有し確認し合い、日々のケアの中で意識して取り組むことのできるよう心がけている。また、職員採用研修時には、必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。	○	理念を掘り下げて具体化し職員全体で話し合う機会を多く持ち、実践が理念に基づいたものになるように日常的に取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月のふれあい号の発行や家族会またはイベント交流などを通して家族や地域の方々にホームの取り組み内容を伝えるようにしている。	○	理念を家族や地域の人々にわかりやすく伝え理解してもらえよういろいろな工夫（地域向け発行紙の発行など）をし、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員同行で毎日のように散歩に出かけ近隣の人たちとあいさつをかわしたり話をしたりしている。	○	近隣の人たちとは顔なじみになっている。今後は近隣の人たちが、気軽に立ち寄ったり遊びにきてくださるように関係を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流ふれあいコーナーを地域の方々に開放しいきいき百歳体操やかみかみ百歳体操の開催や図書館に行くなど地域の人たちと交流している。	○	地域活動への参加や地域の方々との関わりを積極的に持つことができるように取り組むたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域の方々に認知症を正しく理解してもらえるような取組を充実させていくとともに地域住民を対象に介護予防教室の開催など実践して行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>職員全員で評価の意義や理解に努め外部評価の結果で出た課題は全員で改善に向けて具体案の検討を行い実践につなげたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>運営委員の方々から多くの率直な意見を聞くことができ改善に向けた具体的な取り組みにつなげたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>市町村関係者に当事業所を研修場所などに活用してもらい、職員や利用者、地域の方々との交流を図れるような取組みをしていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>対応が必要と思われる場合には適切な支援が受けられるように関係機関への紹介をするなどの橋渡し役となる。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>職員は虐待を正しく理解し入居者の権利が守られるよう日々取り組んでいるが「虐待防止委員会」を設置しより一層の虐待防止に取り組んで行く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し重度化や看取りについての対応医療連携体制加算についてなど詳しく説明している。入居者の状態変化により、契約解除に至る場合は本人家族を交えて対応方針を相談している。	○	事業所としての対応可能な範囲の理解をいただくことと入居者ご家族の不安、疑問には十分にお伺いできるように時間をとって対応して行く。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアーに「気付き」ノートを設置し日々の介護において入居者の言った言葉、意見や発語困難な方は表情などをノートに書きプランに反映している。運営推進会議にも入居者に参加していただき意見を聞く機会を設けている。	○	利用者の言葉やその態度からその思いを察し一部の職員にとどまることなく申し送りカンファレンスを開きケアに反映し利用者本位の運営に取り組みたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「ふれあい」を発行し個別欄に担当スタッフより近況情報をお伝えしている。金銭管理は、毎月家族訪問時に出納帳を確認していただきサイン、印を頂いている。	○	ご家族の安心確保、事業所との信頼関係の維持のためにも丁寧な報告をこれからも行って行く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け意見を伺える機会を作っている。日頃も「意見を出していただける」雰囲気作りをし意見をお伺いしたときは、前向きに受け止めて改善に取り組んでいる。契約時運営推進会議、市相談窓口の連絡先をお伝えしている。	○	事業所の職員一同がご家族のご意見に耳を傾け「何でも云ってもらえる」雰囲気作りを行い意見を反映していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会において事業所としての報告のみでなく各職員からの意見提案を聞いている。連絡ノートを設置し意見を記入しミーティングを行い対処している。	○	不満や苦情は出しづらいことが多いができる限り、「言いやすい」雰囲気作りと、把握に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時には十分な対応ができるよう入居者の状態に合わせた職員を確保している。入浴は本人の希望に合わせて入浴して頂いている。	○	入居者の変動に常に柔軟な対応を行えるように状態の把握に努め管理者、職員、家族の連携を取って行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設内の異動によるダメージを最小限に防ぐため日頃から、施設内の入居者（利用者）にはなじみの関係作りを行っている。新職員に対しては研修期間をできるだけ多く設け入居者、家族には紹介を行う事としている。	○	日頃からどこの施設の利用者でも受け入れケアを行い馴染みの関係づくりに努めたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を設置し年間研修計画を立て取り組んでいる。各自に応じた職員研修を受け職員会にて報告を行う。共に学ぶ体制となっている。	○	受けた研修をどう利用者に反映、生かしていくかが課題である。職員のレベルアップを計っていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属しており、会に参加することにより、職員の研修を行っている。市主催による「事例検討会」に参加し同業者間の情報交換を行っている。	○	グループホーム連絡会や事例検討会に出席する事により、他の事業所の意見や経験を事業所のケアに活かして行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者 主任は日ごろから職員から話しやすい雰囲気作りを心掛けている。勤務時間中に気分転換が図れる個別の休憩室を確保している。	○	職員の親睦会をストレス解消の機会とするのではなく、個々の対応策として施設内だけでなく他事業所の職員等との交流も今後取り入れて行きたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年一回の健康診断を実施している。運営者は頻繁に現場に来て利用者とともに過ごしたり声かけを行い職場の業務を把握している。資格修得に対しても協力支援を行っている。	○	職員が向上心を持って働けるようにさらに取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談では生活状況を把握し必ず本人に会って心身の状態、本人の思いを受け止め職員を受け入れて頂けるように取り組んでいる。	○	本人が納得するまで、お話をお伺いし本人の思いをできる限り早く受け入れられる様取り組んでいく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族がいま何に困っているのか、不安に思っていることは何なのか等を十分に伺い事業所としてできることをお話する。	○	ご家族の立場に立って事前に十分な時間を設け求められていることは何なのかを把握することで納得安心して頂ける様にする。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い状況などを確認し改善に向け場合によっては地域包括支援センターや事業所のサービスにつなげる等の対応を行っている。	○	相談を受けた時は相談事が早く安心できるように対応して行く。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらったり、本人に会いに自宅へ出向いたりしてなじみの関係を作っている。本人には入所の納得ができていくかの確認をしながら対応をしている。	○	本人がホームや職員に徐々に馴染みながらの利用に移行できるように工夫したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の出来る事、好きな事を積極的に行ってもらい、人生の先輩として色々なお話を傾聴する事で潜在的な事を見出し継続出来る様にしている。	○	四季に応じた草花、野菜作りで収穫やフロアに花を活けたりして楽しく喜びを共に味わって行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者に関する出来事は定期的に家族と連絡を持ち、必要時に相談し話し合う事で関係を築いている。	○	今後も職員と家族が本人の生活を支援し支えていける為の協力関係をさらに深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回お便りを出し行事の写真やその時の様子等を一言コーナーを設け暮らし振りを伝えている、又電話により日常生活の様子を報告している。	○	本人と家族とより一層良い関係作りが深まるよう行事等に家族の方に積極的に参加して頂き共に過ごす機会を増やして行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	周辺散歩で自宅の前をコースとする散歩の提供し近所の方との語りの場を持つ、又、生活していた場所へのドライブ支援、楽しい時間が過ごせる様に場所の提供や雰囲気を作り出す様心掛けている。	○	今までの人間関係ができるだけ断ち切れないように家族にも協力してもらいながら支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブル発生時はお互いの話を傾聴し寄り添いをして職員はさり気無く仲介をして解消している。歌を歌ったり、簡単なゲーム遊びや、ビデオ鑑賞をしたりしてお互いの伝えたい事を職員は仲介している。	○	より一層利用者同士が助け合い支えあって暮らしていくことの大切さを考え支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され自宅で過ごされる様になった利用者は同敷地内にある施設利用となり利用時にはホームを訪問されたり、家族からの相談にも応じている。	○	自宅で生活される様になった利用者の家族の介護負担は大変な事と思われるので出来る限りの支援をおこなって行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での本人の思い、希望は何なのか把握は困難であるが不確実な場合は本人の視点に立ってカンファレンスを行い家族に意見を伺っている。	○ 職員の思い込みの視点になりやすいが常に利用者本位の原点に戻り支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴バックグラウンドに関する情報の大切さを伝え聞き取りに協力していただいている。	○ プライバシーに配慮してこれまでの暮らしを把握することでケアに反映する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること出来ないことの把握。 出来る可能性、心身の状態の把握に努めるようにし「気づきノート」「日々の記録」申し送りを通して本人の現状を総合的に感じ取るようにしている。	○ 「気づきノート」「申し送り」「日々の記録」を職員に徹底周知し利用者を総合的に感じ取るようにレベルアップを図る。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意向は聞けても相談しながらの作成は完全とは言えない、意見は言っても任せますと言う家族も多く、スタッフとのカンファレンスで計画を立てる場合もある。	○ 高齢者がキーパーソンであったり、普段面会に出来ない方の支援や関係作りを今後考えていきたいと共に利用者さん及び家族の方との関わりの中で思いや意見を汲み取り介護計画に反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月課題のある事には会議を開催している、その日行った緊急事項には出勤者スタッフで話し合い申し送っている。3ヶ月毎に評価しているが対応困難時は直ちに本人、家族、ケアマネ等必要な関係者が出席し話し合いをして現状に合う新たな計画作成をしている。	○ これからも利用者の変化に応じて見直しが必要になった場合は速やかに関係者と相談し現状に即した介護計画の見直しを行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の暮らし振りを記録シートに記録している。異変時には特に具体的に書くようにしている、スケジュール表に明示し期間内の見直しを行っている。日常生活の様子気づきノート記入、互いに情報を共有しケアや介護計画に取り入れている。	○	意見交換出来る時間をもう少し確保して行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出困難な利用者に訪問診療の支援が受けられるように取り組んでいる。	○	事業所として、必要な支援について何ができるのか、考えながら取り組んで行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員に地域民生委員や、町内会長に参加して頂き南署による「交通安全教室」年2回の消防訓練、利用者と図書館へ本を借りに行くなどしている。	○	同施設内に「地域交流ふれあいコーナー」を設置しており地域の方々に地域資源の活用となるよう働きかけて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じ、訪問理美容サービスを利用している。	○	居宅ケアマネジャーや他事業所等と情報交換しケアに反映して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき情報交換しながら協働している。	○	困難な事例があった場合は事業所内での抱え込みではなく包括支援センターと協働し本人本位の支援につなげて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>今後も利用者 家族の方の希望を大切にしかかりつけ医との関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援して行きたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も専門医と連携をとり認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援に努めて行きたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>日常の健康管理や医療機関との調整等今以上に充実したものにして行きたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>利用者が入院した時には頻回に医療機関関係者と情報交換を行い早期退院に向けて相談し合っている。継続して取組んで行きたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ホームとして出来ることを早い段階から本人、医師、家族と話し合いを持ちながら職員全員で方針を共有する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>24時間対応可能な看護師、職員、医師と連携をとり可能な限り対応できるように取り組みたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今迄の生活の継続性が損われない様に生活環境、支援の内容、生活暦等ご家族の承認の下可能な限りの提供をしている。	○	利用者の環境変化によるダメージが最小限になるように関係機関には出来る限りの情報提供を心がけたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	馴れ合いという訳ではないが身近に触れ合い過ぎてつい身内に話し掛ける様な対応になる事がある。1人1人の人格、誇りを尊重、理解し丁寧な言葉でなく職員は入居者さんの心に届く様な言葉で接する、又、プライバシーを守る様に支援している。	○	親近感の限度、ケア提供側の立場を考える。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定が出来るよう時間を持ち、行事的な事（ドライブ、買い物）の設定をしている。又、一緒になって唄たり、手を振る等してスキンシップを大切にし寄り添い傾聴出来る様働きかけている。	○	意思表示が十分に出来ない場合でも表情や行動から勘案し利用者の希望や自己決定が出来るよう取組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペースで生活されている方が多く、その方に合った支援は出来ているが介護を必要とする方の支援については本人に承諾を得たとしてもやはり職員側のペースになってはいないか常に注意をしている。	○	ゆとりあるケアをする為にもケア以外での業務の簡素化を図る。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問美容室の方が来てくれる。又、本人の希望で行きつけの美容院への同行支援を行っている。行事や外出時には装いの支援をしている。	○	その人らしい身だしなみやお洒落はとても大切なことなので気遣っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	一人ひとりの好みや力を活かせるようにとともに食事を楽しめるように支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	本人の希望に添えるようまたは日常的に楽しめるように支援していきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	一人ひとりの排泄のパターンを理解し気持ちよく排泄できるよう支援していきたい。排泄アセスメント、ケアチャートの導入を検討している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	あまり入浴を好まれない方もおられるが気分を変え温泉施設なども利用するなど工夫している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	一人ひとりの体調なども配慮しながら個々に合わせた安眠や休息の支援をしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	ひとりひとりに合った楽しみや役割をこれからも見い出していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に持たせないでほしいと家族の希望も多く現在はホームで管理している。	○	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり、使えるように日常の暮らしの中で支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに閉じこもらない様週4回は外出を取り入れ(ドライブ)、毎日の周辺散歩、スーパーでの買物等に参加し活動する様に取り組んでいる。	○	今後も一人ひとりの希望に応じて外出支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	モーニングや花見、みかん狩り、コスモス祭り、あじさい祭り、菊祭り等支援している。	○	家族の方々への働きかけをし、一緒に出かけられる様な機会を作って行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族側の事も考慮に入れ入居者の電話申し入れに対して全て日常的に取次はしてないが必要時は支援している。	○	電話をかけたいという希望は多いが、今後は手紙(年賀状など)などでご家族や遠方の知人等とのやり取りができるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気兼ねなく訪問出来る様な雰囲気作りをするよう心掛けている。(笑顔と挨拶、お茶だし等)日頃の生活状況をお話しさせて頂いている。	○	気軽に訪問できる雰囲気作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の話し合いを持ち全ての職員が理解をして決して拘束のないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束のないケアの実現のため今後も身体拘束について正しい理解が深まる様努力していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>今後も鍵をかけないケアに取り組む職員全体がカギをかける事の弊害の理解を深めていきたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>フロア全体が見回せるオープンカウンター式スタッフルームにしており、プライバシーに配慮しながら安全確保に努めている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>注意の必要な物品については一人ひとりの状態に応じて細心の注意を払っていきたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>リスク防止対策委員会を設置し事故防止に努めている。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>リスク防止対策委員会内で利用者の急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しており定期的に確認訓練している。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>事業所内に防火管理責任者を配置し災害対策に取り組んでいる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	事故発生時は直ちに家族への電連絡をして状況説明をして対応している。 リスク委員会で検討後に改善策を実行している。	○	一人ひとりの状態の変化に応じ生ずると思われるリスクについては、その度家族に説明し理解を求め対応策について話し合いをしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	リスク対策委員会において緊急時対策マニュアルを作成し身体状態の変化、異常を早期に発見出来る様にしており。又、バイタルチェックを行い看護師に協力を求めている。異常があれば状態の変化を記録として残し、サインをし健康管理帳に残し職員は情報を共有している。	○	一人ひとりの体調の変化や異常の発見時の対応マニュアルを作成し適切な対応が取れるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬の説明を日誌のカードケースに入れ、それぞれの薬の目的、副作用、用法等を確認し服用時の確認をして正しく服用出来る様支援している。変化が生じれば家族、看護師、医師に連絡をしている。	○	服薬の管理指導は看護師が行っており、職員全体が、薬の目的や副作用、用法、用量について理解できるように取り組んでいる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	寒天や水分補給等の工夫をしているが意欲や認識がなく運動への働き掛けには拒否があり、どうしても下剤に頼ってしまう。水分補給には心掛け、身体を動かす事（散歩、他フロアへの移動、体操）で便秘予防に取り組んでいる。	○	無理のない範囲で運動を取り入れ習慣となる様支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや見守りで支援している。 必要に応じて歯科受診をご家族にお願いしている。	○	口腔内の清潔保持は健康面からみても大変大切である。協力歯科医院にも協力をお願いし指導助言を頂き口腔内の清潔保持に努めていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には気を付けてチェックシートを記入している。 毎月体重測定を行いカロリーの取り過ぎや低カロリーにもならない様にしている。	○	看護師と栄養士に相談しながら、一人ひとりの栄養バランスや一日の適切な水分補給量が確保できるよう職員全員で支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し月1回の会を開催し話し合っている。 インフルエンザ予防注射の実施。又、ウイルスに関する勉強会もしている。 感染対策マニュアルを作成している。	○	感染症予防対策マニュアルの定期的な確認見直しを行い全職員が周知徹底し実行できている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	病院用ハイターや乾燥機による衛生管理を行い、生物には必ず火を通してしている。 食材購入は2日に1回新鮮な物を選んでいる。	○	衛生管理には十分に注意を払い新鮮で安全な食事を今後も提供していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの物や懐かしい写真等を飾り、誰もが安らいでくれる様な雰囲気作りをしている。 玄関周りは踊り場になっており色彩に気を配り造花やトルペイント等置いています。又、椅子やテーブルを置いてくつろげる場になっている。	○	浸しやすくて安心して出入りができるように玄関周りの工夫を今後もしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日向ぼっこが出来る場所があり入居者同士で自然に集まって談笑して過ごしている。 又、クリスマスツリーや雛人形、桜等を飾るなど季節感を採りいれている。	○	これからも居心地よく過ごせる共用の空間づくりを工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別高価な調度品は置いてなく、どこでもあるような家庭的な馴染みの物にしている。 居間にはテレビ、ソファを配置し、いつでも自由に思い思いに過ごせる様にしている。	○	一人ひとりの居場所づくりの工夫をこれからもしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた持ち込み家具が多く入居者の方も戸惑いなく使用している。又、家族の方が一緒になり配置を工夫され個性ある居室作りをされている。	○	本人や家族と相談しながら馴染みの物や好みのものを活かせるように工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調整は適宜行っている。冬の換気については入居者の方にも協力して頂き、窓を開けている時はヒーター等で暖を取っている。掃除の時の換気、冷暖房の温度チェックは特にこまめに心掛けている。	○	こまめな換気を行い、温度調節を図っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誰でも干せる様に物干し台の高さを調整している。(タオル等手軽に干せる様物干しスタンドを置いてある。)配膳台からダイニングテーブルへ運び易い様にしている。浴槽内に滑り止めを使用し廊下、浴室、トイレには手摺を付けている。	○	一人ひとりの機能に合わせた工夫をこれからも行って行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	誤認、錯覚はないが日中は明るく開放的に夜は適度に廊下等の照明を調整をして不安を招かない様している、入居者が自立して日々暮らせる様そつと見守りしている。	○	混乱や失敗が生じた場合は本人にとって何が混乱の原因なのか職員間で情報を共有し、話し合いしながら解決できるよう支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節に応じた鉢植えの花等を置いている。(水遣りは職員と入居者で行っている。)踊り場を利用し造花等色とりどりの花を飾り入居者の方楽しんで頂いている。	○	外回りの空間を利用し、利用者が楽しめる工夫をこれからも考えて行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「笑顔の絶えない生活を目指します」「その人らしさを大切にします」「生きがいのある生活を支援します」を基本理念とし画一的なサービスの提供にならないよう、日々理念を念頭に入れ職員全員で取り組むように努めています。グループホームを含め併設する事業所等に看護師の配置をしており、日々の健康管理、急変時の対応が日中、夜間を通して速やかに対応出来る体制を整えている。又、事業所内において各委員会を設置しいろいろな面から適切なサービス提供が出来ると共に安全、安心した暮らしが出来る様取り組んでいます。そして、フロア会や全体会